

◆◆関東地方整備局の動き◆◆

1. 天皇陛下御在位三十年記念ダムカードを発行します

関東地方整備局 河川部
独立行政法人水資源機構

天皇陛下が御在位三十年を迎えられることを記念して、特殊デザインの記念ダムカードを配布いたします。

関東地方整備局及び独立行政法人水資源機構(関東地区に限る)では、特殊デザインの記念ダムカードを以下のとおり配布いたします。

配布ダム：

関東地方整備局及び独立行政法人水資源機構(関東地区に限る)の管理ダム・建設中ダム

※各ダムへの来訪者のみに配布し、1人1枚とします。郵送等の対応は行っていません。

※各ダムとも当該ダムのダムカードのみを配布し、他ダムのダムカード配布は行いません。

配布期間：

平成31年2月24日から5月31日まで

※配布場所への交通状況等により、上記配布開始日によらないダムがあります。

最新の配布状況等については、各ダムの建設及び管理事務所までお問い合わせ下さい。

デザイン：

下記4種類のデザインより、ダム毎に1種類を配布いたします。

1)『黄櫨染(こうろぜん)』：

天皇陛下が宮中祭儀でお召しになる束帯装束の色目を基調としたデザインです。

2)『帛(はく)』：

天皇陛下が神事のお召しになる帛の御衣(おんぞ)の「白」を基調としたデザインです。

3)『宝物』：

宝物をイメージしたデザインです。

4)『お召し列車』：

天皇、皇后両陛下がお乗りになるお召し列車の色を基調としたデザインです。

参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [479 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000427.html

2. 関東リバースカイアイ (River-SKY-i) を創設河川巡視、点検を人からドローンへ！！ ～陸上・水中レーザードローンを用いた河川管理の効率化、高度化の試行を開始～

関東地方整備局 河川部

○関東地方整備局では、三次元データによる河川管理等を本格的に導入するため、高度な専門的知見、技能を有し、ドローン(無人航空機(UAV))による上空からのレーザー計測、状況監視、映像撮影などを担う専門の運用チーム「関東 River-SKY-i」(関東リバースカイアイ)※を平成 31 年 2 月 25 日に創設し、河川管理の効率化、高度化を推進していきます。

※総勢：52 名(ディレクター：22 名、パイロット：30 名)

○2 月 25 日(月)に、関東 River-SKY-i の結成式を実施します。

また、2 月 25 日(月)～28 日(木)に、メンバーを対象としたドローンの飛行、計測の知識・技能を修得するための講習を実施します。

○陸上・水中レーザードローンを用いて、河川、砂防、ダム、海岸の実際の現場において計測等の試行を順次実施。

当面、鬼怒川(緊急対策プロジェクト)、ハッ場ダム、日光砂防、西湘海岸での計測を予定。

○また、全天候型ドローン、汎用ドローンも導入し、出水時の状況把握、通常の河川巡視における映像監視等による河川管理の効率化を試行。

○平成 31 年 2 月から陸上・水中レーザードローン、全天候型ドローン、汎用ドローン等の資機材調達を順次開始。

参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [844 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000426.html

3. 首都圏広域地方計画の施策を推進するため「近郊居住再生シンポジウム」を開催します！

関東地方整備局
首都圏広域地方計画推進室

国土交通省では国土形成計画に基づき、首都圏における国土形成の方針や必要な施策等を「首都圏広域地方計画」として平成 28 年 3 月に策定しました。

首都圏広域地方計画の施策の一つとして、ワーク・ライフスタイルの多様な選択肢を創出し、首都圏の新たな対流を目指す「新たな働き方・暮らし方を実現する 3 リング(圏央物流リング、近郊居住再生リング、関東大環状軸)の形成」(※)を進めています。

近郊居住再生リング(国道 16 号周辺から都心寄りの郊外エリア)において、高度経済成長

期に整備されたニュータウンや住宅団地のある地域の活力を維持し再生するために様々な取り組みが進められていますが、これらの取り組みを更に推進していくために「近郊居住再生シンポジウム新たな働き方・暮らし方の実現を目指して～新たなワークスタイル・ライフスタイルと郊外のまちづくり～」を開催します。

日時：3月15日(金) 13時30分～

場所：日本教育会館8階 第二会議室(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)

題名：近郊居住再生シンポジウム 新たな働き方・暮らし方の実現を目指して
～新たなワークスタイル・ライフスタイルと郊外のまちづくり～

(※)新たな働き方・暮らし方を実現する3リングの詳細は、
<http://www.ktr.mlit.go.jp/chiiki/index00000032.html>

参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [2397 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000821.html

4. 平成30年度関東地方整備局関係第2次補正予算の概要について

関東地方整備局

関東地方整備局関係の配分概要の詳細については、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

※国土交通省(本省)の予算概要については、国土交通省ホームページをご覧ください。

【国土交通省の平成30年度第2次補正予算】

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_001408.html

参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [207 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000819.html

5. 【E52】中部横断自動車道 新清水 JCT～富沢 IC、下部温泉早川 IC～六郷 IC
2019年3月10日(日)16時30分に開通

関東地方整備局 甲府河川国道事務所
中日本高速道路株式会社

国土交通省関東地方整備局と中日本高速道路株式会社が事業を進めている中部横断自動車道について、開通日時が決定しましたのでお知らせします。

○開通区間：新清水 JCT～富沢 IC(延長約 21 キロメートル)NEXCO 中日本
下部温泉早川 IC～六郷 IC(延長約 8 キロメートル)国土交通省関東地方整備局

○開通日：2019年(平成 31年)3月10日(日)

○開通時間：16時30分(両区間、同時刻に開通します。

※天候により開通時間に変更になる可能性があります。

※同日に両開通区間の開通式典を予定しています。

○新東名高速道路～中央自動車道間の約 7割(約 54 キロメートル/約 74 キロメートル)が開通！

○今回の開通により、

1)山梨県内が初めて新東名・東名と高速ネットワークで繋がります！

2)中央自動車道から下部温泉(身延町)まで高速道路で繋がります！

さらに、山梨県、静岡県 of 所要時間が約 30分短縮

(現状 約 2時間 30分 ⇒ 今年度開通 約 2時間)

○この時間短縮により

1)静岡県⇄山梨県の物流・輸送が効率化

2)清水港からのインバウンド観光の更なる増加等による静岡・山梨の観光周遊の拡大が期待

参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [2086 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/koufu_00000403.html

6. 平成 30 年度 重点「道の駅」の選定について
～地方創生の核となる「道の駅」の優れた取組を応援します～

関東地方整備局 道路部

「道の駅」は、地方創生を具体的に実現していくための極めて有力な手段であり、国土交通省では、関係機関と連携して、地方創生の核となる特に優れた企画を選定し、重点的に応援する重点「道の駅」の取組を平成 26 年度から実施しています。

平成 30 年度は、地方創生や地域活性化の拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設

置、又はリニューアル等の企画提案を募集し、関東地方整備局管内では、7件の応募がありました。

この度、企画提案内容を確認し、有識者等のご意見を踏まえ、重点「道の駅」及び重点「道の駅」候補を選定しました。

<国土交通大臣選定>

○重点「道の駅」 2箇所

今後の施設整備に向け、駐車場や休憩施設等は社会資本整備総合交付金等で重点支援するとともに、自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、ハード・ソフト両面から支援

<関東地方整備局長選定>

○重点「道の駅」候補 5箇所

自治体・関係機関による協議会を設け、複数の関係機関の制度の活用等についてワンストップで相談できる体制を構築するなど、主にソフト面から支援。

全国で選定された重点「道の駅」、重点「道の駅」候補は以下のホームページで公表しています。

<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/index.html>(国土交通省ホームページ)

参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [2713 KB]

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/road_00000235.html

7. 地域インフラサポートプラン ～「技術者スピリッツ」紹介～

関東地方整備局 企画部

関東地方整備局では、年間約1,200件の工事を行っています。私どもは、これまで工事の目的や出来上がった際の効果を中心に広報してきました。建設工事は、いわゆる一品生産です。各現場では、品質が良く、地域の方に末永く使ってもらえるものを作ろうと技術者が日々努力をしています。世界に一つだけの工事に携わる技術者に光をあて、関東地方整備局ホームページ (<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000022.html>)にて紹介しています。

(現在、26話まで掲載中)

是非ご覧ください、「喜ばれるものを作る」奮闘する技術者の魅力が伝われば幸いです。

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/gijyutu/index00000022.html>

◆◆国土交通本省の動き◆◆

1. 「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律の一部を改正する法律案」を閣議決定

～「パリ協定」の目標達成等に向け、住宅・建築物の省エネルギー対策を強化～

「パリ協定」の発効等を踏まえ、住宅・建築物の省エネ性能の一層の向上を図るため、住宅・建築物の規模・用途ごとの特性に応じた実効性の高い総合的な対策を盛り込んだ「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律の一部を改正する法律案」が、本日、閣議決定されました。

1. 背景

「パリ協定」（2016年11月発効）を踏まえた温室効果ガス排出量の削減目標の達成等に向け、住宅・建築物の省エネルギー対策の強化が喫緊の課題となっています。

このため、住宅・建築物市場を取り巻く環境を踏まえ、住宅・建築物の規模・用途ごとの特性に応じた実効性の高い総合的な対策を講じることが必要とされています。

2. 概要

[1] オフィスビル等に対する措置

・省エネ基準への適合を建築確認の要件とする建築物の対象に、中規模*のオフィスビル等を追加

*延べ面積を300㎡とすることを想定。現行は大規模（延べ面積2000㎡以上）のオフィスビル等が対象

・省エネ性能向上計画の認定（容積率特例）*の対象に、複数の建築物の連携による取組を追加

*認定を受けた場合、省エネ性能向上のための設備について容積率を緩和

[2] マンション等に対する措置

・届出制度における所管行政庁による計画の審査を合理化*し、省エネ基準に適合しない新築等の計画に対する監督体制を強化

*民間審査機関の評価を受けている場合に所管行政庁による省エネ基準の適合確認を簡素化

[3] 戸建住宅等に対する措置

・設計者である建築士から建築主に対して省エネ性能に関する説明を義務付ける制度を創設

・トップランナー制度*の対象に、注文戸建住宅・賃貸アパートを供給する大手住宅事業者を追加

*トップランナー基準（省エネ基準を上回る基準）を設定し省エネ性能の向上を誘導。現行は建売戸建住宅を供給する大手住宅事業者が対象

[4] その他の措置

・気候・風土の特殊性を踏まえて、地方公共団体が独自に省エネ基準を強化できる仕組みを導入等

添付資料

[報道発表](#)（PDF形式：158KB）

[概要](#)（PDF形式：243KB）

[要綱](#)（PDF形式：72KB）

[案文・理由](#)（PDF形式：147KB）

[新旧対照表](#)（PDF形式：265KB）

[参照条文](#) (PDF 形式 : 336KB) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/house04_hh_000846.html

2. 平成30年度国土交通省関係補正予算（第2次）の配分について

1. 配分方針

平成30年度国土交通省関係第2次補正予算については、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策のうち初年度の対策」、「中小企業・小規模事業者に対する支援」に加え、「その他喫緊の課題への対応」を行うための所要の経費が計上されたところである。

また、公共事業の効率的な執行のため、いわゆる「ゼロ国債」（当該年度の支出はゼロであるが、年度内に契約発注が可能）が設定されたところである。

これらの配分に当たっては、地域の実情や地方公共団体の要望等を勘案しつつ、高い緊急性と効果が認められる事業に重点をおくこととする。

2. 配分対象事業費 11,636億円

内 訳：防災・減災、国土強靱化のための緊急対策	8,626億円
その他喫緊の課題への対応	2,256億円
国庫債務負担行為（ゼロ国債）	754億円

添付資料

[報道発表資料](#) (PDF 形式) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo05_hh_000172.html

◆◆地域の動き◆◆

平成31年度 第36回全国都市緑化信州フェア
(信州花フェスタ2019) 開催

関東地方整備局建政部都市整備課

1 はじめに

全国都市緑化フェアは、都市緑化意識の高揚や都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び住民等の協力による都市緑化を全国的に推進し、緑豊かな潤いのある街づくりに寄与することを目的として、昭和58年度から毎年度、開催されており、平成31年4月からは第36回にあたる「信州花フェスタ2019～北アルプスの贈りもの～」と愛称を名付け、長野県松本市、塩尻市にある松本平広域公園をメイン会場に、大田市、安曇野市にある国営アルプスあづみの公園がサブ会場となっているほか、各市のまちなかにサテライト会場を設けています。

また、同フェアの中心的な行事として、皇室をお迎えして「全国都市緑化祭」を期間中の1日間、開催される予定です。

2 開催概要

主催：長野県、松本市、大田市、塩尻市、安曇野市、公益財団法人都市緑化機構

開催日：フェア（2019年4月25日（木）～6月16日（日）（53日間））

場所：メイン会場（長野県松本平広域公園）

サブ会場（国営アルプスあづみの公園、長野県烏川溪谷緑地）

サテライト会場（主催4市で設定）

HP：<https://shinshu-hanafesta2019.jp/>



3 信州花フェスタ2019 5つの魅力

信州花フェスタ2019では、以下の5つの魅力を掲げています。

魅力1 信州からあなたにプレゼント！残雪の北アルプスの麓に広がる絶景の花畑

美しく輝く残雪の北アルプスを背景に、この時期県内随一の規模を誇る700品種・100万株を超える花や緑が彩るメイン会場、まちなかで展開するサテライト会場により松本平は花と緑に包まれます。



(左・鳥瞰図)

メイン会場：松本平広域公園



(上・イメージ)

北アルプスと花の丘

魅力2 キラリと光る匠の技が集結！国内最大級のガーデンショー

県内外の造園家や県内の庭造りを学ぶ高校生などが創り上げた、近年の緑化フェアで最大規模となる100を超える様々な庭園が一堂に見られます。

- ・コンテスト形式で造園の技能を競う庭園「信州の庭」「信州彩園」「あそびの森」
- ・信州の若手造園家による「しあわせ暮らしの庭めぐり」
- ・県内外の自治体による庭園

など

魅力3 絶対に見逃せない！信州ゆかりのアーティスト等による特別企画展

今だけしか見ることができない、ここだけの特別な企画展を行います。

- ・劇団四季による特別企画展
- ・みて、ふれて、つくって「いわさきちひろ・花とあそびの庭」
- ・「柿崎順一アート作品インスタレーション JUNICHI KAKIZAKI Exhibition METAPHOR | 比喩的な自然」
- ・「そら植物園・西畠清順による信州産サボテンのインスタレーション」

など

魅力4 見るだけじゃつまらない！花と緑に触れ合える体験プログラムを毎日開催

メイン会場では、いつでも誰でも体験できる、花や緑と手軽に触れ合えるプログラムを毎日開催します。

- ・フラワーアレンジメント、ハーバリウム、苔玉づくり

など

魅力5 心揺さぶる感動を贈る！ぐるっと巡る花と緑の舞台

子どもから大人まで、みんなが楽しみながら会場を巡れる企画を行います。

- ・広いメイン会場内を花や緑を眺めながらのんびり巡れるロードトレイン
- ・花フェスタの会場や県内の花や緑が楽しめるスポットを巡って抽選でプレゼントが当たるスタンプラリー
- ・サブ会場とサテライト会場を巡るサイクリングツアー（緑化フェアでは初）

など

4 サブ会場・国営アルプスあづみの公園のみどころ

サブ会場となっている国営アルプスあづみの公園は田園風景が特徴の「堀金・穂高地区」とアルプスの山岳風景につながる自然豊かな「大町・松川地区」で構成されています。

今回の信州花フェスタ2019と連携して、以下の様々な企画やみどころを用意しています。

【みどころ①】

38万本のチューリップからユリへの開花リレー（堀金・穂高地区）や、公園では国内最大規模、チベタヌス^{※1}を主役に据えたシェードガーデン^{※2}が見られます。（大町・松川地区）

（※1 アジア原産のクリスマスローズ

※2 日陰や半日陰の庭）



（上・写真）

シェードガーデン（イメージ）



（上・写真）

「チベタヌス」



（左・写真）

北アルプス・常念岳と
チューリップ
（堀金・穂高地区）

（下・位置図）
メイン会場「松本平広域公園」
サブ会場「国営アルプスあづみの公園」



【みどころ②】

フェア期間中では、NHK趣味の園芸などテレビでおなじみの講師を招いて、信州花フェスタオリジナルの園芸講習とトークショーを開催します。

・金子明人氏による「宿根草を上手く育てる講座」（大町・松川地区6/8開催）

・「切るナビ」で知られる上条祐一郎氏による「信州の庭づくりと手入れのお話」

（堀金・穂高地区5/18、大町・松川地区6/6開催） など

【みどころ③】

毎年4500人規模の参加となるアルプスあづみのセンチュリーライドを信州花フェスタとの連携行事として、堀金・穂高地区からのスタートもあり、さらに信州花フェスタ2019サイクリングツアーと称して、春の残雪の残る北アルプスの山々を背景にサブ会場とサテライト会場（安曇野市・大町市）を自転車で巡り満喫するツアーを催行します。



（上・写真）“緑のアルプスあづみのセンチュリーライド”の様子

以上、2019年の春は、みどころ満載の「全国都市緑化信州フェア（信州花フェスタ2019）」に、ぜひお越しください。